

英語科 学習指導案

授業者：神戸山手女子高等学校 教諭 山田茉麗奈
Paula Angeline Reyes

場 所：334 教室

1. 日 時： 2021年11月27日（土） 第4校時 11：45～12：35

2. 対 象： 高校1年3組 27名

3. 科目名： 英語表現 I

4. 単元名： 関係代名詞

5. 授業観について

○生徒観

授業中の活動に対してとても真面目に取り組む姿勢があり、ペアワークなどにも積極的に参加することができる。一方で、英語が得意な生徒と苦手な生徒が二極化している状況も見られ、中学の既習事項が不十分な生徒も数人在籍しているクラスである。

○教材観

関係詞の理解を欠くことは英語の運用に支障をきたすのみならず、リーディング分野の重要性が増した大学入学共通テストにおいても、正確な文章理解を妨げることになる。だからこそ、生徒は第1学年において、関係代名詞の基礎を習得し、第2学年以降においては関係代名詞を用いた文章を読解し、且つライティング、スピーキングやリスニングにおいても使いこなせるようにならなければならない。

基本的な関係代名詞については、生徒は中学校で既に学習しているが、生徒にとっては習得が困難な文法事項でもある。本時は関係代名詞の導入として、基本事項の復習を行い、スタディサプリ **English** を音読のツールとして用いながら、知識の定着を目指す。スタディサプリ **English** は個人の学習進度に応じて、4技能を習得できるようデザインされており、本校では特にリスニングとスピーキングのスキルを強化すべく導入した。

- (1)適切な音量と発音で音読することができる。(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)
- (2)基本的な関係代名詞を正しく使って、表現することができる。(外国語表現の能力)
- (3)日本語とは言語構造の異なる、英語における関係代名詞を理解する。(言語や文化についての知識・理解)

○指導観

関係代名詞は中学校での既習事項であるが、苦手としている生徒は多い。そのため、授業内でできるだけ多くの英文に触れ、しっかりと構造を理解させた上で、自然に関係代名詞を使えるようにさせたい。また、学習ツールとしてスタディサプリ **English** を使用するが、元来、個別最適化のための教材であり、集団授業ではその特性を活かしづらい点もある。だが、本時においてはスタディサプリ **English** を用いた学習方法を習得させ、家庭における学習習慣の形成をはかりたい。

6. 指導計画

- (1) 関係代名詞 導入…1時間（本時1/4）
- (2) 関係代名詞 基本…2時間
- (3) 関係代名詞 応用…1時間

7. 本時の指導目標

- (1) 主格・目的格の関係代名詞の使い分けができるようになる。
- (2) 関係代名詞を用いたセンスグループ（意味のかたまり）を認識できる。
- (3) スタディサプリ **English** を用いた家庭学習習慣を形成する。

8. 教材

教科書 『EMPOWER ENGLISH EXPRESSION I』（桐原書店）

補助教材 『英文法基礎 10 題ドリル』（駿台文庫）

スタディサプリ **English** 英語 4 技能コース(株式会社リクルート)

9. 学習の流れ

段階	時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点
導入	7分	iPad で、スタディサプリ English 4 技能コース レベル4 のデイリーレッスンのレッスン 014 を「声が出させない」モードで演習問題に取り組む。	本時の目標を提示する。 【流れ】 ①パッセージを発話ボタンを押して音読する。 ②お手本音声を聞いてセルフチェック項目に従って確認する。 ③設問音声を聞いて発話ボタンを押して解答を発話する。 ④設問の解答例・解説を確認する。
展開 ①	33分	a. 主格・目的格の関係代名詞(who・which)の使い分けについて学ぶ。 b. 空欄に当てはまる関係代名詞を答える。 c. パッセージの1文ずつの音読を1回、クラス全体で行う。 d. 導入部で読んだパッセージのシャドーイングを2回行う。 e. 起立して、3分間で10回以上音読する。	a. 関係代名詞は既習事項についての復習であることに留意する。 【説明する項目】 ①パッセージで扱われている関係代名詞が文中でどのような役割を果たしているか ②who / which との違い ③主格 / 目的格の関係代名詞の使い分け b. 空欄に当てはまる関係代名詞が何か、きちんと理解できているかを確認する。問題文を通して、生徒が「気づき」を得られるように指導する。 c. クラス全体が Paula に続いて、1文ずつリピートする。 d. Paula による音読に合わせて、1回目はゆっくりと、2回目はナチュラルスピードに近づけてシャドーイングさせる。 e. 生徒自身の音読スピードを高く保つため、「3分間で10回以上音読する」という目標を提示する。速度を意識するあまり、乱雑になっていないかを確認するために、適宜机間指導を行う。自信がなく声が出てない生徒に対しては、隣で一緒に読んだり、誤った発音を正していくなどして、個別対応を行う。
展開 ②	8分	a. スタディサプリ English のお手本音声を3回オーバーラッピングする。 b. シャドーイングしたパッセージを、スタディサプリの「声が出せるモード」を選択し、個人でイヤホンマイクを用いて、実際に録音する。 c. 実際に録音した「あなたの解答」をお手本音声と比較して、セルフチェックを行う。 d. ホワイトボードで日本語訳を示しながら3回シャドーイングする。	a. bで行う録音のためにお手本に似せて発音できるように練習する。 b. 適切な音量とスピードで音読できているか、机間指導する。できていない生徒には発音に自信のない単語の発音の確認を徹底し、助言を行う。 c. お手本音声と比較しながら自己評価することにより、リズム・流暢さ・日本語（カタカナ英語）の発音などの違いを理解させる。さらに、初見で読んだ時よりも音読練習を通じて、やや流暢に読めるようになっていくことにも気付かせる。そこから、日頃の音読を通じた家庭学習の重要性についても気付かせたい。 d. 英文を見なくてもできる人は1回目から顔を上げる。3回目には全員が顔を上げてシャドーイングを行う。
まとめ	2分	a. 本時の目標を達成できているかを確認する。 b. 次回までの課題を確認する。	a. 本時の目標の再確認を行ったうえで、展開①-b で用いたスライドで復習する。 b. スタディサプリ English を用いた課題の指示を行う。